

東高リベラルアーツ通信

No. 1

2025年10月17日発行



福島東高校は、生徒の皆さん・先生が互いに学び合う『Interactive High School/対話型高校』という新しい進学校の在り方を目指します。

「総合的な探究の時間」でも、これまでにない新しい進め方を開拓していきます。

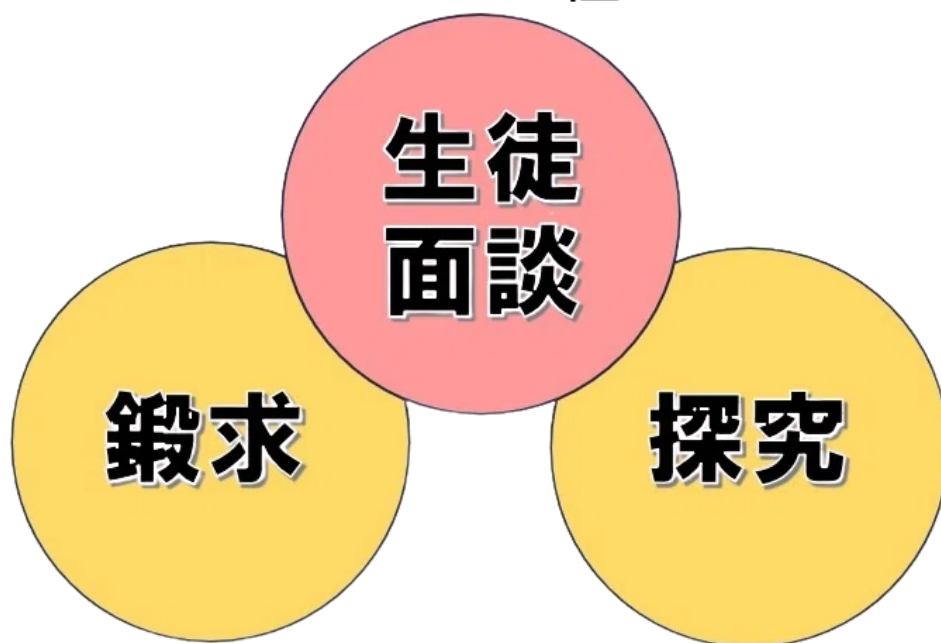
生徒の皆さんも、先生方とともに日本の新しい学びのあり方を共創するパートナーです。

パートナー間の認識共有の一つの手段として、東高リベラルアーツ通信を発刊いたします。

今後も発刊していきますので、ぜひいろいろな学び合いを展開していきましょう。

よろしくお願いいたします。

〔対話型高等学校（*Interactive High School*）〕 3つの柱



生徒との面談（対話）をメインの柱にしつつ、「探究」活動と「鍛求」活動という2つの「たんきゅう」活動で生徒たちの学びを支えていきます。

ワークシートの書き方

10月14日（火）に複数の先生・生徒からワークシートの書き方・使い方について質問がありましたので解説します。

先生方へ：生徒への探究についての対話のきっかけとして使用してください。

完成させることを目的とするものではありません。

生徒の皆さんへ：30人以上のゼミでは、なかなか先生方と対話することができません。

ワークシートを通して、担当の先生とコミュニケーションを取ってください。

Keep（継続）：うまくいったこと、調べたことを書きます。

Problem（問題点）：うまくいかなかったこと、改善すべき点を洗い出します。

Try（挑戦）：問題点を解決するために、次に何を試すべきかを具体的に考えたことを書きます。

発表までのスケジュール

日時	内容	備考
10月21日（火）	調査研究のつづき	
11月18日（火）	調査研究のつづき 仮説と検証方法	石橋先生来校
「探究」とは、仮説の検証を通じて、単なる感想・意見を超え、論理的思考を組み立てて、他者との学び合いを実現することに意義があります。フィールドワークや実験では、なにかの <u>仮説が「正しいのか、そうでないとしたら、どこがどのように違うのか」を明らかにする</u> 「検証」に該当します。 <u>そこで問題になるのは「どのような仮説をどのように検証するのか」</u> です。		
1月13日（火）	スライド発表の準備 フィールドワークのまとめ	石橋先生来校
1月20日（火）	スライド発表の準備	
1月27日（火）	ゼミ内発表①	グループ内
2月3日（火）	ゼミ内発表②	ゼミ内
2月10日（火）	全体発表会	石橋先生来校
生徒の皆さんと先生方が、福島東高校の「探究」をどのように行ってきたのか、対話型高校とはどのようなものなのかを、福島県教育委員会、中学生、保護者の皆様、地域の方々に提示する「見せ場」です。来場者に <u>人生に残る問い</u> を發しましょう。		
皆さんが自分の未来に誇れる福島東高校をどう作るかは皆さんの取組にかかっています。		

活動回数が少ないです。1月に発表できるように主体的に動きましょう。

何をしよう？次にどんな段取りが必要だろう？等と「？」が湧きそうなときは
ゼミ指導の先生に気軽に相談しましょう！



調べ学習のみで終わらないために、土日祝日や冬休み中にフィールドワーク・実験・アンケート調査と分析、文献調査と分析 等を行おう！

検証活動

フィールドワークとは、研究者が、特定の地域や社会、または現場（フィールド）に直接足を運び、観察やインタビューなどして、直接的な情報を収集・分析する調査手法です。文献調査と異なり、現場でしか得られない「生きた情報」を重視します。

検証実験とは、事実や仮説の真偽を確認するために行うもので、そのために実際に行う物理的・科学的な操作を指します。特に新しい技術などの実用性、効果、課題などを実際の環境で確かめることを目的とした実験です。

アンケートとは、特定の仮説を、アンケート調査によって集めたデータで客観的に証明・反証します。



検証活動は、探究活動の肝になる工程なので、実際に**動き出す前に**かならず、ゼミ指導の先生相談しましょう。****きっと良いアドバイスとご支援をくださいます。

フィールドワークの手順

やること	説明
目的の明確化	なぜフィールドワークを行うのか、何を明らかにしたいのかを具体的にします。
調査計画の立案	①フィールドの選定: 調査地（フィールド）を決定します。 ②対象者の決定: 誰に（または何を）調査するかを明確にします。 ③手法の選択: インタビュー、アンケート、資料収集など、適切な調査方法を決定します。 ④質問内容の検討: どんな質問をするのか、具体的に考える。 せっかく会いに行くので、はい/いいえ だけでは答えられない良問を考えよう。 ⑤日程・予算の策定: 調査日時、移動手段などを計画します。
依頼	依頼は、電話で行います。メールなどでの確認や調整が必要になる場合もあります。 ①自己紹介: 自身の所属、氏名を明確に伝えます。 ②依頼の経緯・目的: 相手に依頼した理由と調査・取材の目的を簡潔かつ明確に伝えます。 ③希望日程の提示: 相手に負担をかけないように、こちらから複数の候補日を提示します。
現地調査	対象者に対して質問を行い、生の証言、意見、経験などを収集します。
事後のお礼	できるだけ早く、丁寧な言葉で感謝の気持ちを伝えることが大切です。

実験の手順

やること	説明
目的の明確化	何について知りたいのか、どんな現象を明らかにしたいのか、具体的な問いを立てます。
仮説	その問いに対し、どのような結果になるかを事前に考えます。
実験方法の検討と準備	予想を検証するためにどのような方法で実験を行うか計画します。 使用する器具や試薬、安全上の注意点を確認し、準備します。
観察・実験の実施	検討した方法に従って、正確かつ安全に実験を行います。 データを記録します（実験ノートへの記入）。
結果の整理	得られたデータや観察結果を、表やグラフなどを用いて分かりやすくまとめます。
考察	整理した結果が、実験前の予想と一致したか、異なったかを検討します。その結果から何が言えるか、どのような原理が働いているかを考えます。
まとめ（結論）	実験全体を通してわかったことや、問題に対する答えを簡潔にまとめます。今後の課題や反省点を含めることもあります。

アンケートの手順

やること	説明
目的とゴールの設定	「なぜ」アンケートを実施するのか、「何」を知りたいのかを明確にします。
ターゲットの決定	「誰に」聞くのか（調査対象者）を決定します。
調査手法の選択	アンケートを「どのように」実施するかを決定します。
質問項目の作成	目的を達成するために必要な質問内容、質問数、回答形式を設計します。
アンケートの依頼・配布	ターゲットに対し、設定した手法（WebフォームのURL送付、対面など）でアンケートを配布します。
データ回収	設定した期限まで回答を回収します。
データ集計	回答データを整理し、集計します。Webフォームを利用した場合は自動で集計されますが、紙の場合は手動で行います。
データ分析	単純集計（各質問の回答率など）や、クロス集計（性別と満足度など、複数の質問を掛け合わせて分析）などを行い、傾向や関連性を見つけます。
まとめ	分析結果を基に、目的と結論、具体的なアクションをまとめたレポートを作成します。



センシティブな質問（非常に個人的な情報、犯罪歴、トラウマに関するものなど）は、必要性が極めて高くない限り避けるか、回答者に配慮した聞き方を工夫します。

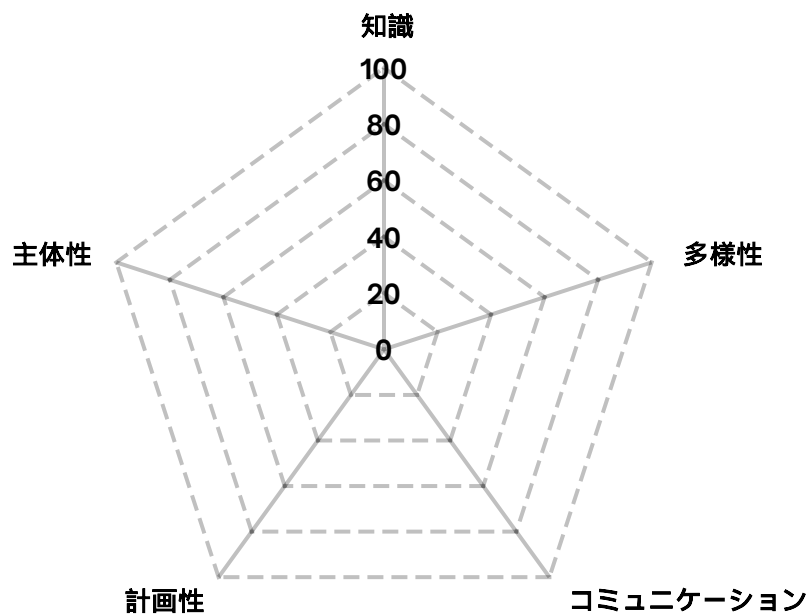
回答者を特定の結論に導くような誘導的な表現、バイアスのかかった質問は、倫理的にもデータの公正性の観点からも禁止します。

東高リベラルアーツで身に付く力

探究活動で身に付くことができるスキルは以下の通りです：

- 分野における知識やスキルの習得ができる
- 書籍に親しむことができる
- 他者の意見や考えを理解し、物事に対して多面的に考察することができる
- 他者とのコミュニケーションを通じて、自分の考えを表現することができる
- 自ら計画を立てて、フィールドワークをおこなうことができる
- 主体的に学習し、理解を深める意欲を持つことができる

● 知識 ● 多様性 ● コミュニケーション ● 計画性 ● 主体性



年度末の振り返りレーダーチャート